

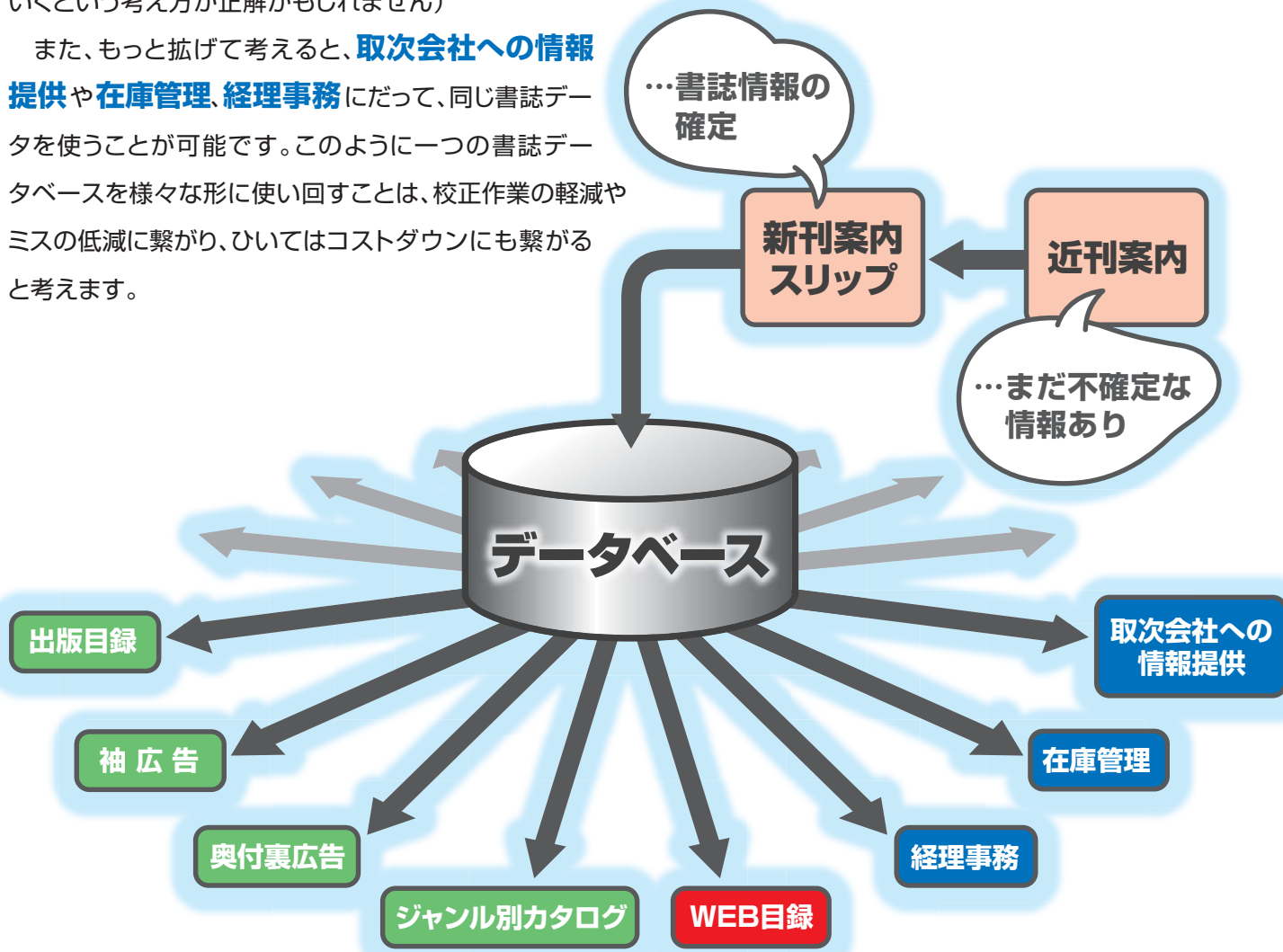
書誌データをマルチに使い回して 効率アップ↑ コストダウン↓

ワイズはもともとデータベースから自動組版で印刷物を作る事が得意な会社です。このような印刷物には、各種名簿・価格表・カタログ・部品集・法令集・規則集……等々いろいろありますが、**出版目録**もその一つです。最近、多くの出版社さんが「書誌データベースを完備して、そこから出版目録を作る」というやり方をされています。しかし、せっかく整備した書誌データを出版目録以外にも利用されている出版社さんはまだ少ないようです。

例えば**袖広告**、**奥付裏広告**や**ジャンル別のカタログ**なども作ることができますし、印刷物を離れて考えると、**WEB目録**も作ることができます(**WEB目録では、紙媒体では決して実現できない検索性が得られます**)。このように、きちんとした**書誌データベース**を作れば、販促に関わる様々なものがその情報の二次利用で作れるのです。

御社にご利用いただいております**スリップ**も同じです。これもまた書誌データから作ることのできるものです。(ワークフローの流れからすると逆かもしれません。まずスリップを作り、その時の使用データを書誌データベースに追加していくという考え方が正解かもしれません)

また、もっと拡げて考えると、**取次会社への情報提供**や**在庫管理**、**経理事務**にだって、同じ書誌データを使うことが可能です。このように一つの書誌データベースを様々な形に使い回すことは、校正作業の軽減やミスの低減に繋がり、ひいてはコストダウンにも繋がると考えます。



書籍データベースをまだお持ちでない出版社様、データベースの構築からご提案させていただきます。書籍データベースはあるけれど、このような使い方はしていないという出版社様、御社にあった使い回しテクニックを一緒に考えさせていただきます。どうぞ一度ワイズにご相談ください。